

## 執筆者略歴 (2024年4月現在)

ダリル・プレス (ダートマス大学政治学部教授・グローバル安全保障研究所長)  
研究テーマは米国外交政策、抑止論、戦争の将来。著書に *Calculating Credibility* (2005)、*The Myth of the Nuclear Revolution* (2020)。主要学術誌に論文を発表するほか、*Foreign Affairs*、*The New York Times*、*The Atlantic Monthly* などの一般紙誌にも寄稿している。サンディア国立研究所との協力により、外交政策の専門職者を対象に核抑止任務の技術的基盤を教える Strategic Forces Bootcamp を共同創設した。機密文書に含まれない最先端の軍事分析の推進に取り組むプロジェクト Seminar on Conventional Force Analysis の共同創設者でもある。シカゴ大学卒業後、マサチューセッツ工科大学で博士号を取得。

有江 浩一 (ありえ こういち) (防衛研究所理論研究部政治・法制研究室所員 (2等陸佐))

専門分野は核戦略・核抑止論。防衛大学校国際関係論卒業、同総合安全保障研究科国際安全保障コース修了。拓殖大学大学院国際協力学研究科博士後期課程修了。博士号取得 (安全保障、2011年)。統合幕僚会議事務局、陸上自衛隊幹部学校 (現：教育訓練研究本部) 戦略教官、第1次イラク復興業務支援隊バスラ連絡幹部、防衛大学校防衛学教育学群准教授などを経て2014年に現職。主要業績に「極超音速兵器をめぐる米中露の取り組み—核抑止・核軍備管理への含意」『安全保障戦略研究』第3巻第2号 (2023年3月)；「アメリカの核指揮統制通信能力の近代化」『安全保障戦略研究』第2巻第2号 (2022年3月)；“Complex Deterrence Theory and the Post-Cold War Security Environment,” *NIDS Journal of Defense and Security*, no. 17 (December 2016) など。

ジェームズ・アクトン (カーネギー国際平和財団核政策プログラム共同部長)  
物理学博士。現在は、高度な非核兵器による核エスカレーションのリスクとその軽減策に関する書籍を執筆中。このテーマに関する著作に、*International*

*Security* 掲載の論文 “Escalation through Entanglement”、カーネギー国際平和財団レポート *Is It a Nuke?* がある。極超音速兵器の専門家として同財団レポート *Silver Bullet?* を著し、このテーマに関して米連邦議会下院軍事委員会と議会の諮問委員会である米中経済・安全保障調査委員会で証言を行った。また、下院歳出委員会でも核近代化について証言した。「核の惨禍の防止に関する国際ルクセンブルク・フォーラム」の国際諮問委員会委員を務める。*The New York Times*、*The Wall Street Journal*、*The Washington Post*、*Dadalus*、*Foreign Affairs*、*Foreign Policy*、*Science & Global Security*、*Survival* など各紙誌に寄稿しているほか、CNN の State of the Union、NBC の Nightly News、CBS の Evening News、PBS の NewsHour などテレビ報道番組にも出演している。

#### ザファール・カーン (バロチスタン情報技術大学国際関係学部教授)

パキスタンのクエッタ市にあるバロチスタン情報技術大学 (BUITEMS) のバロチスタン・シンクタンク・ネットワーク (BTTN) 事務局長。グラスゴー大学 (英国) で国際政治学修士号、ハル大学 (英国) で戦略学の博士号を取得。イスラマバードのパキスタン国防大学戦略学部でも教鞭をとった。*Cambridge Review of International Affairs*、*Comparative Strategy*、*Washington Quarterly*、*Journal of Contemporary China*、*Contemporary Security Policy*、*East Asia*、*International Journal of Conflict Management* など、様々な国際的な査読付学術誌に論文を発表している。著書に *Pakistan's Nuclear Policy: A Minimum Credible Deterrence* (2015)、*Nuclear Deterrence in South Asia: New Technologies and Challenges to Sustainable Peace* (2020) のほか、近著に *India's Evolving Deterrent Force Posture: Temptation for Pre-emptive Strikes, Power Projection, and Escalation Dominance* (London & New York: Palgrave MacMillan, 2021) がある。

#### 大西 健 (防衛研究所政策研究部グローバル安全保障研究室主任研究官)

専門分野は強要・強制外交、平和作戦。立命館大学国際関係学部卒業、京都大学公共政策教育部専門職学位課程修了の後、2010年に防衛研究所入所。

2021年にリーズ大学政治・国際関係研究科博士課程を修了し、博士号を取得（政治・国際関係）。主な業績として、「強要と核兵器—能動的核威嚇の成功条件の考察」—政祐行編著『核時代の新たな地平』（防衛研究所、2024年）、「既成事実化への対応策としての強要・強制外交—実績と失敗の原因」『安全保障戦略研究』第3巻第1号（2023年）、「平和作戦における軍事力行使—国連中央アメリカ多面的統合安定化ミッション（MINUSCA）」『安全保障戦略研究』第1巻第1号（2020年）、「平和作戦における強要—国連コンゴ民主共和国ミッション（MONUC）」『防衛研究所紀要』第22巻第1号（2019年）など。

#### チャールズ・グレイザー（マサチューセッツ工科大学安全保障研究プログラムシニアフェロー）

ジョージ・ワシントン大学政治学・国際関係学名誉教授。同大エリオットスクールの安全保障・紛争研究所の初代所長を10年以上にわたり務めた。同大就任前は、シカゴ大学ハリススクール教授及び副大学院長を務めた。専門分野は国際関係理論と国際安全保障政策。理論的研究では、主に構造的リアリズム（特に防衛的リアリズム）、安全保障のジレンマ及び攻撃・防御バランスと軍備競争、抑止理論と核戦略をテーマとする。安全保障政策研究ではこれまで、米国による台湾へのコミットメントを断念することの是非や、中国の大規模な核報復能力を拒否するための競争を行うことの是非を含めた米国の対中政策、米国が弾道ミサイル防衛を配備することや、敵国の核戦力を標的化する政策を断念することの是非を含めた冷戦期及びその後の米国の核兵器政策、米国がペルシャ湾岸地域の石油の流れを保護するコミットメントを維持することの是非を含めた米国のエネルギー政策を取り上げてきた。著書に *Rational Theory of International Politics* (2010)、*Analyzing Strategic Nuclear Policy* (1990)、共同編著に *Managing U.S. Nuclear Operations in the 21st Century* (2022)、*Crude Strategy* (2016) がある。*International Security* に掲載された中国に関する論文に、“How Much Risk Should the United States Run in the South China Sea” (Fall 2022)、“Should the United States Reject MAD? Damage Limitation and U.S. Nuclear Strategy



## 令和 5 年度安全保障国際シンポジウム 「核時代の新たな地平」

2023 年 12 月 6 日 (水)

8:50 ~ 9:00 所長開会挨拶: 石川 武 (防衛研究所長)

9:00 ~ 11:00 第 1 セッション「核抑止と軍備管理」

議長: 伊豆山 真理 (防衛研究所 理論研究部長)

司会・討論: 一政 祐行 (防衛研究所 サイバー安全保障研究室長)

報告: ダリル・プレス (米ダートマス大学 グローバル安全保障研究所長)

有江 浩一 (防衛研究所 政治・法制研究室所員: 2 等陸佐)

ジェームズ・アクトン (米カーネギー国際平和財団 核政策プログラム共同部長)

11:10 ~ 13:10 第 2 セッション「核抑止と強要の理論」

議長: 伊豆山 真理 (防衛研究所 理論研究部長)

司会・討論: 栗田 真広 (防衛研究所 政策シミュレーション室主任研究官)

報告: ザファール・カーン (パキスタン バロチスタン・シンクタンク・ネットワーク  
エグゼクティブ・ディレクター、バロチスタン情報技術大学 国際関係学部教授)

大西 健 (防衛研究所 グローバル安全保障研究室主任研究官)

チャールズ・グレイザー (米マサチューセッツ工科大学 安全保障研究プログラムシニアフェロー)